

科目名 (英)	統計学	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	青山 旬
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	水曜/1限
講師紹介	1987年に歯学博士、2011年に日本公衆衛生学会認定専門家を取得 大学での教務経験を経て栃木県立衛生福祉大学の校長を務め、豊富な実務経験を有する。 保健統計に関する執筆も行う。						
目的	医学は経験から得られた知見を科学的に説明(証明)する作業を経て確立していく学問である。そのため、その科学的な説明(証明)する方法が学問として体系づけられてきた。その方法の一部は統計学である。本事業では、実験を通して統計学を理解していく。						
科目概要	医療現場で働くと、色々な専門知識が必要となり、その専門知識を得るために本や論文を読むこととなる。このような本や論文の正しい読み方や用いられる解析法を理解してもらう。						
到達目標	実験方法を考え、得られた結果をまとめ、そして表現するといった一連の流れを実践する						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学(医学書院)			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書	統計学の図鑑						
特記事項	積極的に授業参加してください。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	統計学の役割を理解する
2	出現頻度	講義	実験法をを考え、実験する(サイコロ)ことができる。
3	解析	講義	得られた結果をまとめることができる
4	無作為抽出	講義	10目サイコロ実験から得られた結果をまとめることができる
5	1滴の重さ	講義	実験方法を考えることができる
6	2つのデータの差	講義	仮説を立てることができる
7	正規分布	講義	ペットボトルの中身を考えることができる
8	復習試験	講義	第1回～第7回の総復習を行う。
9	文献を読む	講義	解析方法を理解することができる
10	2群の比較	講義	フィッシャーの正確確率検定を理解することができる
11	2群の比較	講義	U検定を理解することができる
12	2群の比較	講義	t検定を理解することができる
13	正規分布	講義	相関関係を理解することができる
14	多群の比較	講義	解析方法の色々を理解することができる
15	定期試験	講義	

科目名 (英)	心理学Ⅱ PsychologyⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福井 博一
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	水曜日／3限
講師紹介	保有資格：公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士 略歴：精神病院、総合病院精神科、企業の相談室等で、カウンセリングや心理検査を行ってきました。 その間、講師として、専門学校をはじめ大学・大学院等において、心理学や臨床心理学の講義を行ってきました。						
目的	2年生では、臨床心理学を学びます。それにより、対人援助職である視能訓練士として、心の健康・心の病気、及び、支援の方法について理解し、説明することができるようになることを目的とします。具体的には、多様な環境に置かれた、あらゆる世代の人々の心の健康・心の病気について学習することにより、資格者として、援助を求める人々と実践的にかかわることができるようになるための基礎を身に付けることを目的とします。						
科目概要	心理学の中でも、特に、臨床心理学を中心に据えて、幅広い視点で人の心をとらえていきます。						
到達目標	視能訓練士は、れっきとした対人援助職です。 皆さんが資格者としてかかわる人々は、たんに視覚によってのみ生きているわけではありません。目は、その人の一部にほかなりません。 その人そのものとかわるために、聴くこと、知ること、考えること、理解すること、そして実践することができることを到達目標とします。						
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70％未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他（ ）						
教科書	特に指定しません。講師作成の資料を配布します。			事前事後 学習と その内容	予習は必要ありません。復習をしっかりと行ってください。 また、授業で学習した事柄を、日常生活にあてはめて考え、実践することは、とても重要な事後学習になります。		
参考図書	適宜紹介します。						
特記事項	学生の皆さんには、授業中、折に触れて資料を読んでもらうなり、意見等・声をあげてもらいながら進めます。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	臨床心理学概説・心の病気～その1～	講義	・臨床心理学を学ぶ目的・予定・方法について説明する。 ・心の病気を学ぶ時の注意点について説明する。 ・統合失調症について説明する。
2	心の病気～その2～	講義	・うつ病・躁病について説明する。 ・うつ病・躁病の治療について説明する。
3	心の病気～その3～	講義	・認知症について説明する。 ・認知症の非薬物療法について説明する。
4	心の病気～その4～	講義	・発達障害について説明する。 ・発達障害児・者の支援について説明する。
5	心の病気～その5～	講義	・知的障害について説明する。 ・知的障害児・者の支援について説明する。
6	心の病気～その6～	講義	・恐怖症・パニック症・強迫症について説明する。 ・恐怖症・パニック症・強迫症の治療について説明する。
7	心の病気～その7～	講義	・摂食障害について説明する。 ・摂食障害の治療について説明する。
8	復習試験	講義	・1回目から7回目までの復習を行い、試験を実施する。
9	心の病気～その8～	講義	・性別違和について説明する。 ・性別違和に悩む人々の支援について説明する。
10	心の病気～その9～	講義	・PTSDについて説明する。 ・PTSDの治療について説明する。
11	心の病気の支援～その1～	講義	・行動療法について説明する。 ・行動療法を用いた治療について説明する。
12	心の病気の支援～その2～	講義	・芸術療法について説明する。 ・芸術療法を用いた治療について説明する。
13	心の病気の支援～その3～	講義	・プレイセラピーについて説明する。 ・プレイセラピーを用いた治療について説明する。
14	心の病気の支援～その4～	講義	・燃え尽き症候群について説明する。 ・仕事で困ったときの対処法について説明する。
15	定期試験	講義	・定期試験を実施する。

科目名 (英)	内科学 Internal Medicine	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	佐藤 麻衣
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2				曜日/時間
講師紹介	薬剤師免許を有し、病院や調剤薬局などでの職歴のある講師が、実務経験で取得した知識をもとに内科学をわかりやすく講義する。						
目的	国家試験合格を目指し、その目標に向けての基礎学力を培う。						
科目概要	1年の病理学の学習を基礎として、さらに深い知識を得る。						
到達目標	医療に関わる上で最低限必要な内科学的知識を取得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学(医学書院)			事前事後 学習と その内容	事後学習として、アンダーラインを引くよう指示した箇所を見直し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	筆記用具(マーカーor色ペン)を必ず用意すること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	呼吸器疾患	講義	呼吸器感染症やその他の肺疾患について理解する
2	呼吸器疾患、循環器疾患	講義	呼吸器感染症やその他の肺疾患について理解する、生活習慣病のもとになる病態や心疾患について理解する。
3	循環器疾患	講義	生活習慣病のもとになる病態や、心疾患について理解する
4	血液・造血器疾患	講義	血液・造血器疾患の原因や分類を理解する
5	自己免疫疾患・アレルギー疾患	講義	アレルギー・自己免疫疾患とは何か、その分類を理解する
6	自己免疫疾患・アレルギー疾患	講義	アレルギー・自己免疫疾患とは何か、その分類を理解する
7	感染症	講義	感染症の検査・治療・分類などを理解する
8	復習試験	講義	第1回～第7回の総復習を行う。
9	消化管疾患	講義	消化管疾患の分類・病態を理解する
10	代謝疾患	講義	代謝疾患とは何かを理解する
11	内分泌疾患	講義	内分泌疾患とは何かを理解する
12	肝胆膵疾患	講義	肝胆膵疾患とは何かを理解する
13	肝胆膵疾患、腎・泌尿器疾患	講義	肝胆膵疾患とは何かを理解する、腎・尿路疾患の分類などを理解する
14	腎・泌尿器疾患	講義	腎・尿路疾患の分類などを理解する
15	定期試験	講義	

科目名 (英)	臨床関連医学	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	脇雅子
		授業形態	講義				
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	水曜日3限
講師紹介	医学博士号を持ち、長年医学部で研究と教育に携わる、滋慶学園ならびに医療圏専門学校で基礎医学全般を教授する						
目的	臨床関連医学は病気を理解するための基礎であり、視能訓練士として必要な病気の原因や特徴を理解する						
科目概要	疾患を内科学的、病理学的、生理学的に理解する						
到達目標	人体の構造と機能、病理学との相互関係を理解し、視能訓練士として必要な医学的・科学的知識を習得する。また、将来的に臨床現場で生かせるようにする						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	系統看護学講座 病態生理学 医学書院			事前事後 学習と その内容	毎回必ず復習をし、小テストの誤りの確認もする		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	疾患を学ぶための基礎知識	講義	疾患の原因、正常と異なる点を理解する
2	循環器の仕組みと病態生理	講義	心臓の構造・つ機能、機能障害、血圧などを理解する
3	循環器の仕組みと病態生理	講義	心臓の構造・つ機能、機能障害、血圧などを理解する
4	循環器の仕組みと病態生理	講義	心臓の構造・つ機能、機能障害、血圧などを理解する
5	呼吸器の仕組みと病態生理	講義	呼吸器の構造、機能、疾患について理解する
6	呼吸器の仕組みと病態生理	講義	呼吸器の構造、機能、疾患について理解する
7	呼吸器の仕組みと病態生理	講義	呼吸器の構造、機能、疾患について理解する
8	復習試験	講義	前半の理解度を確認する
9	消化、吸収と病態生理	講義	消化器の構造、機能、疾患を理解する
10	消化、吸収と病態生理	講義	消化器の構造、機能、疾患を理解する
11	消化、吸収と病態生理	講義	消化器の構造、機能、疾患を理解する
12	神経、筋肉の仕組みと病態生理	講義	中枢神経、末梢神経の構造、機能、疾患を理解する
13	神経、筋肉の仕組みと病態生理	講義	中枢神経、末梢神経の構造、機能、疾患を理解する
14	泌尿器系の仕組みと病態生理	講義	泌尿器系の構造、機能、疾患を理解する
15	定期試験	講義	後半の理解度を確認する

科目名 (英)	公衆衛生学 Public Health	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	伊藤 春雄
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	月曜日/2限
講師紹介	保有資格:歯科医師。歯学部卒業、医学研究科大学院にて博士(医学)取得。地域で臨床を行いつつ、大学、専門学校にて本科目の教鞭を取り26年。						
目的	視能訓練士の国家試験では、この科目としての出題はない。しかし、この科目の内容が出題されることはある。また、医療従事者として知っておくべき事柄が多く含まれる。過去の出題を配慮した講義に努める。						
科目概要	視能訓練士の全体像を理解するための、視能訓練士の業務内容と取得知識のオリエンテーション。						
到達目標	視能訓練士に必要な公衆衛生学に関する知識を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	「よくわかる専門基礎講座 公衆衛生」 金原出版			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	健康の概念 / 疾病予防 /人口統計	講義	健康の適宜や概念、予防の段階、人口静態・動態 について知る
2	人口統計 /地域保健	講義	生命表・生命関数、様々な健康指標について知る / 地域保健について知る
3	疫学	講義	疫学の特徴、調査、指標、方法について知る /因果関係について知る /スクリーニングについて知る
4	母子保健	講義	母子保健の意義・対象・指標について知る /国際的な母性に関する概念を知る /行政における事業・施策について知る
5	学校保健 / 成人保健	講義	学校保健の意義・対象・行政、領域について知る / 生活習慣病や加齢に伴う心身状態について知る
6	成人・高齢者保健	講義	生活習慣病、健康増進や疾病への対策を知る
7	感染症	講義	感染症の成立条件と予防対策、院内感染、感染症の動向、主な感染症について知る
8	復習試験	講義	
9	食品衛生・国民栄養	講義	食品衛生法と食品管理、国民栄養の概要や調査について知る /食事バランスガイド等の施策、食品表示について知る
10	環境保健	講義	生活環境、地球環境・環境問題 について知る
11	社会保障・社会福祉	講義	社会保障、社会保険、社会福祉制度 について知る
12	精神保健・障害者保健	講義	精神保健の意義、様々な精神障害について知る / 地域の精神保健活動について知る
13	精神保健の意義、様々な精神障害について知る / 地域の精神保健活動について知る	講義	産業保健の意義、労災や安全管理体制、職業性疾病について知る
14	国際保健	講義	国際保健の意義、国際協力と国際機関について知る
15	定期試験	講義	

科目名 (英)	視覚障害者リハビリテーション	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	塩田直子
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	金曜1、2限
講師紹介	保有資格:認定視能訓練士・相談支援専門員・介護支援専門員・同行援護指導者・盲ろう通訳 略歴:国立小児病院付属視能訓練学院卒業。都立府中病院、都立多摩総合医療センターにて視能訓練士業務。2016年よりNPO法人視覚障がい者ネットワークコトリナ設立。現在、8箇所の眼科にて視能訓練士業務。豊富な実務経験を有する。視能訓練士養成校にて非常勤講師。						
目的	視覚障害者の現況を学ぶ。 ロービジョンケアに必要な基礎知識を学ぶ。 ロービジョンケアの必要性、魅力を知り、視能訓練士としてロービジョンケアに関わる技術を習得する。						
科目概要	眼科現場で、ロービジョンケアを行えるための基礎知識を学ぶ。						
到達目標	視覚障害者の現況を理解する。 見えない、見えにくい世界を知り、視覚障害者に対する正しい知識を持ち、対等な人間関係を身につける。 視能訓練士にしかできないロービジョンケアを学ぶ。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	ポイントマスターロービジョンケア外来ノート			事前事後 学習と その内容	配布資料による事前事後学習で知識の定着を図る		
参考図書	ロービジョンケアの実際						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ロービジョンのガイダンス	講義	・視覚障害の概要を知る ・見えにくい体験をし、見え方を説明できるようになる。□
2	ロービジョンケアの基本	講義	・基本の6項目を理解する ・眼科の役目を知る ・ニーズを引き出す方法を理解する
3	診断書	講義	・視覚障害の等級を知る。 ・症例を使って、等級を出せるようになる。
4	補装具と日常生活用具	講義	・補装具と日常生活用具の違いを理解する ・道具によるQOLの向上を学ぶ
5	読み書きと差明	講義	・MNREADの体験・拡大について理解する ・必要な倍率を求められるようになる ・眩しさの理解 ・遮光眼鏡の合わせ方
6	代表的疾患とsのロービジョンケア	講義	・代表的疾患について説明できる ・疾患によるアプローチの違いを理解できる
7	年代別ロービジョンケア	講義	・若年、就労期、高齢者それぞれの特徴を知る ・年代によるケアを把握する
8	中間試験	講義	・診断書について理解を深める
9	福祉領域での視覚障害者リハビリテーション 1 (稲垣直子氏)	講義	・歩行訓練士の仕事を理解する ・視覚リハビリテーションを体験する
10	福祉領域での視覚障害者リハビリテーション 2 (稲垣直子氏)	講義	・歩行訓練士の仕事を理解する ・視覚リハビリテーションを体験する
11	移動 (当事者:瀬尾敏也氏)	講義	・移動の方法を理解する ・白杖・盲導犬について知る
12	視覚障害者の心理	講義	・視覚障害者の心理と受容その過程について学ぶ
13	ロービジョンケアの演習	演習	・症例のロービジョンケア計画を立てる ・既存の方法にとらわれないケア
14	連携と明日からできるロービジョンケア	講義	・視能訓練士としてできることを具体的に理解する ・臨床の場でのクイックロービジョンケアを知る
15	定期試験	講義	・ロービジョンケアの基本を知り、診断書、補装具などの理解を定着する

科目名 (英)	関係法規 Public Health	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	伊藤 春雄
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	月曜日/3限
講師紹介	保有資格:歯科医師。歯学部卒業、医学研究科大学院にて博士(医学)取得。地域で臨床を行いつつ、大学、専門学校にて本科目の教鞭を取り26年。						
目的	医療従事者として知るべき関係法規の要点の理解、医療保険、社会福祉制度の概要を知り実務に役立てる。						
科目概要	視能訓練士法をはじめとした「医療関係法規」と日本における「医療保険」、「社会福祉制度」について学ぶ。						
到達目標	視能訓練士に必要な法律、医療、福祉制度に関する知識を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	無し 配布資料有り			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	医療における法律 概論	講義	法律とは、医療における法律とは何か
2	医療における法律 各論①	講義	医療法とは
3	医療における法律 各論②	講義	視能訓練士法とは
4	医療における法律 各論③	講義	健康増進法、医薬品医療機器等法とは
5	医療における法律 各論④	講義	地域保健法とは
6	医療における法律 各論⑤	講義	母子保健法、学校保健安全法とは
7	医療における法律 各論⑥	講義	後期高齢者医療確保法、労働安全衛生法とは
8	中間テスト	講義	中間テストと解説
9	医療における法律 各論⑦	講義	感染症法、廃棄物処理法とは
10	医療における法律 各論⑧	講義	臓器移植法、保健統計とは
11	医療保険制度①	講義	医療保険とは、仕組みについて
12	医療保険制度②	講義	医療保険の種類
13	社会福祉制度①	講義	福祉政策とは、児童福祉、母子福祉、高齢者福祉とは
14	社会福祉制度②	講義	障害者福祉とは
15	定期試験	講義	筆記試験(択一式)

科目名 (英)	眼科薬理学 I Ophthalmic Pharmacology I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	渡邊 隆
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科 I 部	単位	2			曜日/時間	月曜日/1時限
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境にて仕事をしています。また薬系の大学や専門学校で講師を務めています。実際の点眼薬の実物を使ってより一層リアルに感じることができるかと思います。また教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていくことを心がけています。						
目的	国家試験では3～4問しか出題されない科目ですが、現場で使える知識を身に着ける。						
科目概要	眼科の現場で使用される点眼薬の役割とその意義、また副作用について理解する。						
到達目標	現場で使える知識を身につける。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	点眼薬 クリニカルブック			事前事後 学習と その内容	毎週の初めに前週で教わった内容の小テストを行う		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	この科目の学習方法を理解する。またこの科目の意義を理解する。
2	点眼薬の基礎 その1	講義	点眼薬はどういうものでどのように作られているか、また点眼容器はどのように作られそれがどういう意味なのかを説明できる。
3	点眼薬の基礎 その2	講義	点眼薬の正しい使い方、保管方法、使用期限等を説明できる。
4	感染症治療薬 その1	講義	主な抗菌薬の薬品名と作用機序が説明できる。
5	感染症治療薬 その2	講義	主な抗真菌薬、クラミジア治療薬、抗ヘルペス薬の薬品名と作用機序が説明できる。
6	アレルギー治療薬	講義	主なアレルギー治療薬の薬品名と作用機序が説明できる。
7	角膜治療薬・ドライアイ治療薬	講義	主な角膜治療薬、ドライアイ治療薬の薬品名と作用機序が説明できる。
8	復習テスト	講義	2～7回目の内容
9	炎症治療薬	講義	主な炎症治療薬の薬品名と作用機序が説明できる。
10	緑内障治療薬 その1	講義	緑内障の発生原因や病態を説明できる
11	緑内障治療薬 その2	講義	主な緑内障治療法の薬品名と作用機序が説明できる。
12	白内障治療薬・散瞳薬	講義	主な白内障治療薬、散瞳薬の薬品名と作用機序が説明できる。
13	点眼麻酔薬	講義	主な点眼麻酔薬の薬品名と作用機序が説明できる。
14	期末テスト	講義	2～13回目の内容
15	期末テスト 解答解説	講義	

科目名 (英)	視能検査学Ⅰ Orthoptic ExaminationsⅠ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	藤戸 茜
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	水曜日/1限目
講師紹介	保有資格:視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士の資格を取得。豊富な実務経験を有する。 総合病院、眼科個人クリニックにて臨床経験後、2024年より専門学校にて専任教員を務める。						
目的	眼科における一般検査を学ぶ。 国試や臨床へ繋がる知識を身に付ける。						
科目概要	正しい知識と技術を身につけることによって精度の高い検査結果を出すことができる。						
到達目標	知識と技術を結びつけることによって知識の定着を目指す。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	視能学			事前事後 学習と その内容	眼科検査一般の知識を身に付け、正常と異常・疾患を鑑別できるようになる。		
参考図書							
特記事項	ハイフレックス授業						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	外眼部検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 Hertel眼球突出計など外眼部の検査方法を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
2	涙器・涙液検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 シルマー試験など涙器・涙液検査方法を理解し、できるようになる。 異常を呈する疾患を知る。
3	角膜検査	講義	検査の種類を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
4	眼圧検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査の種類を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
5	隅角検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査の種類を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
6	細隙灯顕微鏡検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査の種類を理解する。
7	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
8	中間テスト	講義	
9	眼底検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 直像鏡、倒像鏡検査の検査方法を理解する 異常を呈する疾患を知る。
10	眼底撮影・検査	講義	OCT・眼底カメラについて学ぶ。 検査の種類を理解する。
11	眼底撮影・検査	講義	疾患別に検査結果を読み取れるようになる。
12	超音波検査	講義	Aモード、Bモードの検査方法を理解する。 検査の種類を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
13	蛍光眼底造影検査 眼窩画像検査	講義	検査の種類を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
14	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
15	定期テスト	講義	

科目名 (英)	生理光学実習Ⅱ Practical Training Physiologic OpticsⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	越田・今井・正信
		授業形態	実習		有		
		時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	月曜／3・4限
講師紹介	越田愛生 2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて5年間の豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校の専任講師として勤務。						
目的	必要に応じた検査の選択、正しい検査方法と記載、その結果の考察までができる。□ □ □						
科目概要	視能訓練士が行う検査のほとんどを占める視力検査・視野検査の実習授業						
到達目標	基礎知識に基づいた視力検査ができるようになる。 視野異常のない動的視野検査ができるようになる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 ■実技試験 □その他()						
教科書	検査ガイド・視能学・エキスパート検査学			事前事後 学習と その内容	授業開始後に教科書を読み(もしくは動画を見る)予習をする。 毎回、小テストを行う。		
参考図書							
特記事項	授業中の動画撮影・写真撮影は不可とする。 実習室の使い方などのルールを守り、授業を受けること。□ □						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	クロスシリンダー視力 ゴールドマン視野検査・対座法・アムスラー	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。 ゴールドマンでは時間も意識し1眼分の視野を完成できるようにする。
3・4	調節力検査・トポ・スキア ゴールドマン視野検査・対座法・アムスラー	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。 ゴールドマンでは時間も意識し1眼分の視野を完成できるようにする。
5・6	レフラクトメータ・ノンコンタクトノメータ ゴールドマン視野検査・対座法・アムスラー	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。 ゴールドマンでは時間も意識し1眼分の視野を完成できるようにする。
7・8	レフラクトメータ・ノンコンタクトノメータ ゴールドマン視野検査・対座法・アムスラー	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
9・10	調節力検査・トポ・スキア ゴールドマン視野検査・対座法・アムスラー	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
11・12	クロスシリンダー視力 ゴールドマン視野検査・対座法・アムスラー	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
13・14	中間テストにむけ練習	実習	これまで学んだ検査を復習し、中間テストに備え練習する。
15・16	中間テスト	実習	
17・18	近見視力・調節力検査 視覚誘発電位(VEP)	実習	近見視力の測定方法・声かけについて学ぶ。 VEPについて機械の操作方法・目的・正常値を学ぶ。
19・20	ETDRS・コントラスト・CFF 近見視力・調節力検査	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。 近見視力の測定方法・声かけについて学ぶ。
21・22	ETDRS・コントラスト・CFF レンズメータ	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
23・24	視力検査 レンズメータ	実習	矯正視力について+側からの検査方法を学ぶ。 1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
25・26	視力検査 視覚誘発電位(VEP)	実習	矯正視力について+側からの検査方法を学ぶ。 VEPについて機械の操作方法・目的・正常値を学ぶ。
27・28	期末試験にむけ練習	実習	これまでの授業を復習し、次週の定期試験のための練習をする ☐ ☐
29・30	期末試験	実習	

科目名 (英)	生理光学実習Ⅲ Practical Training Physiologic OpticsⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	芝田 理恵/藤戸 茜
		授業形態	実習		有	開講区分	
		時間数	60	授業回数	30		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2				曜日/時間
講師紹介	保有資格:視能訓練士 大学にて視能訓練士の資格を取得。豊富な実務経験を有する。 病院、眼科医院にて実務経験を積み、専任講師として専門学校において教務を行い現在に至る。						
目的	必要に応じた検査の選択、正しい検査方法と記載、その結果の考察までができる。□						
科目概要	視能訓練士が行う検査のほとんどを占める視力検査・視野検査の実習授業						
到達目標	基礎知識に基づいた視力検査がスムーズにできるようになる。 静的・動的視野検査ができるようになる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 ■実技試験 □その他()						
教科書	視能学・検査ガイド・エキスパート検査学			事前事後 学習と その内容	理解度を把握するため、また知識を定着させるため毎回小テストを行う		
参考図書							
特記事項	授業中の動画撮影・写真撮影は不可とする。 実習室の使い方などのルールを守り、授業を受けること。□						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	視力検査・眼鏡視力・二色テスト	実習	グループごとに検査する。円滑に行うために求められることは何かを考える。
3・4	視力検査・眼鏡視力・二色テスト	実習	グループごとに検査する。円滑に行うために求められることは何かを考える。
5・6	視力検査・眼鏡視力・二色テスト	実習	グループごとに検査する。円滑に行うために求められることは何かを考える。
7・8	GP・HFA・眼底カメラ・OCT	実習	グループごとに検査する。円滑に行うために求められることは何かを考える。
9・10	GP・HFA・眼底カメラ・OCT	実習	グループごとに検査する。円滑に行うために求められることは何かを考える。
11・12	外部実習	実習	視能訓練士にて啓蒙・啓発活動を行う。
13・14	中間テストにむけ練習	実習	基礎知識の復習し、正しい記載方法を学ぶ。 円滑に検査を行うための声かけを意識し、上達を目指す。
15・16	中間テスト	実習	
17・18	合同検査の準備	実習	合同検査の準備をする。検査の順序や動線、それぞれの役割を確認する。
19・20	合同検査の準備	実習	合同検査の準備をする。検査の順序や動線、それぞれの役割を確認する。
21・22	合同検査	実習	1年生を患者とし、医療従事者としての対応を心がけ、検査する。
23・24	合同検査のふりかえり	実習	合同検査のレポートについて各グループで発表する。
25・26	症例検討	実習	問診から検査計画を行う。検査結果を検討し、疾患名に繋げる。
27・28	期末試験にむけ練習	実習	基礎知識の復習し、正しい記載方法を学ぶ。 円滑に検査を行うための声かけを意識し、上達を目指す。
29・30	期末試験	実習	

科目名 (英)	神経眼科学Ⅰ neuroophthalmologyⅠ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	高橋 理
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	金曜日 3時限
講師紹介	保有資格： 医師, 医学博士 略 歴： 神経解剖学を専門研究分野として現場での豊富な実務経験を有する。学位論文テーマは三叉神経系, 「マーティン神経解剖学, 西村書店」の「前庭系と動眼系」章を2007, 2015年に翻訳, 雑誌「神経眼科」24(2)pp142-147(2007)に総説を依頼執筆, 日本解剖学会と日本神経科学学会にて学会活動を今日まで継続した。						
目的	視能訓練士という専門職として患者の要求に適確に対応する神経眼科学の知識, 技能, 態度を修得し, 他の医療スタッフと円滑なコミュニケーションが可能な範囲にまで医学的な背景を学ぶ。さらに全身疾患を背景とする眼疾患についても理解を深める。						
科目概要	眼科領域に必要な神経学および神経眼科学について体系的に学習する。						
到達目標	1. 神経眼科疾患に関連する解剖学, 生理学, 病理学など基礎科目との関連の理解 2. 神経眼科疾患の眼症状, 全身所見, 原因疾患, および治療法の概略を修得						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	神経眼科診療のてびき			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について解剖体の一部を用いるので, 写真撮影及び録音録画を許可しない。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	神経眼科の特徴	講義	1. 脳神経の概観 2. 先天性眼球運動障害
2	脳神経	講義	1. 眼球運動に関与する脳神経 2. 三叉神経, 顔面神経, 交感神経, 副交感神
3	核, 核下性眼球運動障害①	講義	1. 動眼神経 2. 滑車神経 3. 外転神経
4	核, 核下性眼球運動障害②	講義	1. 動眼神経 2. 滑車神経 3. 外転神経
5	核, 核下性眼球運動障害③	講義	1. 動眼神経 2. 滑車神経 3. 外転神経 4. その他, 関連症候群
6	核, 核上性眼球運動障害①	講義	1. 水平眼球運動障害 2. 垂直眼球運動障害 3. その他
7	核, 核上性眼球運動障害②	講義	1. 水平眼球運動障害 2. 垂直眼球運動障害 3. その他
8	復習試験	講義	神経眼科学1～7の総復習, および知識の定着
9	眼 振	講義	1. 病的眼振 2. 視運動性眼振 3. 異常眼球眼振
10	瞳孔異常	講義	1. 散瞳と縮瞳 2. 瞳孔不同 3. 鑑別検査
11	視神経障害	講義	1. 視神経乳頭 2. 視神経萎縮 3. 視神経疾患
12	視神経障害	講義	1. 視交叉, 視索, 外側膝状体 2. 側頭葉, 頭頂葉, 後頭葉 3. 高次脳機能
13	基本診察①	講義	1. 眼球運動の診察 2. 眼瞼の診察
14	基本診察②	講義	眼球突出の診察から 一般眼科検査
15	定期試験	講義	神経眼科学Ⅰ・1～14の総復習および知識の定着□

科目名 (英)	眼疾病学Ⅰ OphthalmologyⅠ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	金上 千佳
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	水曜日/2時限
講師紹介	保有資格:視能訓練士、医学写真技師 大学病院で1年間眼科写真技師のもと研修をし、その後他大学病院にて臨床現場で眼底写真、蛍光眼底造影撮影、前眼部写真撮影に従事。約4年間の勤務の後フリーに転向。現在約10か所の病院と契約し、蛍光眼底造影をはじめ眼底写真撮影、前眼部撮影、光干渉断層計を担当しながら現場の視能訓練士に対して技術指導も行い、豊富な実務経験を有する。また、複数の専門学校で視能訓練士科の学生に対して眼疾病及び眼科写真術の講義を担当						
目的	正常眼底をしっかりと覚え、それを踏まえて様々な疾病の特徴を掴み画像を見ただけで疾患名が分かるようになってください。また、様々な眼底検査の基礎知識を身に付け、結果が理解できるようになってください。						
科目概要							
到達目標	疾病がわからないとどの検査を施行すればよいのか、また結果はどうなるのか理解できません。正確な検査ができる視能訓練士が現場では必要とされています。一流の視能訓練士は疾病をしっかりと理解しています。また近年の国家試験にて疾病が多く出題されていますが、画像が読めれば難しい問題ではなくなります。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	現代の眼科学、眼科検査ガイド、眼科診療ガイド、レジュメ			事前事後 学習と その内容	数多くの画像を見る		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	眼底の解剖復習	講義	眼底の解剖をいま一度復習し、網膜の構造などをしっかりと理解し正常眼底を頭に入れる
2	様々な眼底検査	講義	蛍光眼底造影や光干渉断層計など眼底検査を理解し、読影できるようになる。
3	蛍光眼底造影の基礎	講義	蛍光眼底造影の仕組み及び読影法を学ぶ。
4	フオスリットランプ/網膜所見	講義	細隙灯顕微鏡の照明法を覚える。様々な眼底出血や白斑の違いを理解する
5	生活習慣病による眼底疾患1	講義	糖尿病網膜症の眼底特徴をつかむ
6	生活習慣病による眼底疾患2	講義	糖尿病網膜症の眼底特徴をつかむ
7	生活習慣病による眼底疾患3	講義	高血圧による眼底所見及び血管閉塞疾患について理解する
8	復習試験/その他の網膜疾患	講義	1～7回の内容/網膜剥離や血液疾患の特徴を掴む
9	黄斑部疾患	講義	黄斑部に異常がでる疾患の特徴、必要な検査及びその結果を理解する
10	ぶどう膜炎1	講義	ぶどう膜炎の基礎を学ぶ
11	ぶどう膜炎2	講義	3大ぶどう膜炎について学ぶ
12	緑内障1	講義	緑内障の種類を覚え、必要な検査及びその結果を読影できるようになる
13	緑内障2	講義	様々な緑内障の違いを理解する
14	網膜色素変性症	講義	遺伝疾患である網膜色素変性症の特徴、検査及びその結果を理解する
15	定期試験	講義	1～15回の内容

科目名 (英)	ロービジョン医学 Low vision	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中谷 数一 正信 りさ
		授業形態	講義				
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	金曜日/1.2限
講師紹介	視覚障害当事者講師。自ら体験し学んだ理論とリアルを当事者目線で伝えたい。覚えるよりも考える姿勢での参加を願う。専門学校講師(非常勤)、同行援護ガイドヘルパー養成講師、視覚障害者デジタル支援員、中途視覚障害者、ブラインドマラソンランナー。						
目的	障害とは何か、を社会モデルで捉え、視覚障害のために、日常生活・社会生活で何らかの支障をきたす人々に対する様々な支援方法を学ぶ。支援は多領域(医学的、教育的、社会的、職業的、心理的リハビリテーションなど)にまたがり、多職種連携で行われるが、その中で視能訓練士に求められる技量・役割を認識し、視覚障害者の自立、社会参加を手助けしていける視能訓練士になれるよう授業を行う。						
科目概要	・障害とは何か、社会モデルによる障害の理解 ・多職種連携で行われる視覚障害リハビリテーションの全体像の理解と、視能訓練士が果たすべき役割 ・自立と社会参加に向けた各種支援策の理解と障害者の心理						
到達目標	視覚障害リハビリテーションの全体像を理解し、視能訓練士が果たす役割を学び、医療から福祉への架け橋の役割を担える視能訓練士となる。従来の視覚リハビリテーション手法に加え、デジタルロービジョンケアを学び、現場で実践展開できるようになる。視覚障害者の心理を学び、障害受容に向けて患者や家族に寄り添える視能訓練士になる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	レジメ			事前事後 学習と その内容			
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	障害とは(障害平等研修)	講義	障害について知る。障害とは何か、どこに障害があるのか、社会モデルの視点で分析し説明する。
2	リハビリテーションとそれを取り巻く、法・制度とサービス	講義	視覚障害リハビリテーションの全体像を説明する。また、視覚障害者の自立生活・社会参加に必要な福祉サービスや社会の合理的配慮提供について、どのような法的・制度的仕組みでサポートされているのか、場面ごとに具体的な例を挙げて説明する。
3	視覚障害リハビリテーション1	講義	視覚障害者が自立した生活を送るための課題解決策や軽減策、訓練手法(補助具の活用、代行技術の習得等)について、目的ごとに説明する。
4	視覚障害リハビリテーション2と点字学習	講義	視覚障害者の情報保障手段である点字の成り立ち、構成を説明する。読み書きを演習し、簡単な文章を読み、簡単な単語を点字で書く。
5	視覚障害リハビリテーション3とデジタルロービジョンケア1	講義	デジタル化が、視覚障害リハビリテーションにもたらした大きな変化やメリットを具体的な例を挙げて説明する。デジタルディバイド問題など現状の課題と解決の方向性について説明する。
6	情報保障とデジタルロービジョンケア2(見えなくても使えるiPhone)	講義	情報保障(知る権利の保護と意思疎通手段の確保)を担保するために必要な配慮と方法を場面ごとに説明する。視覚に頼らないPhone操作を学び、視覚障害者の「分かる・できる」可能性を広げるためにスマホが持つ可能性・潜在性を説明する。
7	視覚障害者の心理と受容、眼科外来における合理的配慮	講義	視覚障害者の心理と受容の過程につき、それぞれの段階の特徴を、支援者の関わり方を含めて、説明する。眼科外来で必要な配慮(視覚情報提供と移動介助)を、場面ごとに説明する。
8	中間テスト、解説	講義	
9	視覚補助具・補装具・拡大鏡について	講義	視覚補助具とは、その種類や特徴、目的について学ぶ。 拡大率の計算・倍率の計算ができるようにする。
10	障害者の支援制度について 身体障害者手帳の等級・取得について 受容過程について	講義	障害者の支援制度はどのようなものがあるか学ぶ。 身体障害者手帳の取得基準や視覚障害者の等級について学ぶ。 視覚障害者の心理やその受容過程について学ぶ。
11	盲学校見学	講義	盲学校へ見学に行き振り返りをレポート提出
12	盲学校見学	講義	盲学校へ見学に行き振り返りをレポート提出
13	国家試験練習問題	講義	これまで学んだことを国試過去問を解きながら復習。
14	定期試験にむけこれまでの総復習	講義	これまで学んだことを復習し、定期試験に備える。
15	定期試験	講義	

科目名 (英)	視能訓練学Ⅰ OrthopticsⅠ (Training)	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	越田 愛生
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	木曜日/1限目
講師紹介	2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて5年間の豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校の専任講師として勤務。						
目的	1年生で学んだ視能矯正学を基礎とし、訓練、治療を学ぶ。						
科目概要	斜視、弱視の訓練、治療						
到達目標	知識を身につけ、国家試験問題を解けるようになる。 臨床現場において正しい治療、訓練を行えるようになる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	視能学			事前事後 学習と その内容			
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	斜視手術	講義	斜視型の復習をする。 斜視の術式を学ぶ。
2	斜視手術	講義	量定とまつわり距離について学ぶ。 斜視型別に術式を学ぶ。
3	斜視手術	講義	術前・術後検査を学ぶ。 術中・術後合併症を学ぶ。
4	ボツリヌス治療	講義	ボツリヌス治療について学ぶ。 適応疾患、合併症について学ぶ。
5	斜視治療	講義	屈折矯正治療について学ぶ。 治療前～治療後までの流れを理解する。
6	斜視訓練	講義	単眼固視訓練、抑制除去訓練、網膜対応異常の矯正訓練、融像訓練、輻湊訓練、について学ぶ。
7	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
8	復習試験	講義	
9	斜視訓練	講義	大型弱視鏡を用いた抑制除去訓練、網膜対応異常の矯正訓練、融像訓練、輻湊訓練、について学ぶ。
10	斜視訓練 弱視治療	講義	斜視訓練、弱視各型の復習をする。 屈折矯正治療について学ぶ。 治療前～治療後までの流れを理解する。
11	弱視治療	講義	完全遮蔽法、不完全遮蔽法について学ぶ。
12	弱視治療	講義	中心窩刺激法、残像法について学ぶ。
13	弱視治療	講義	身体表現性障害について学ぶ。
14	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
15	復習試験	講義	

科目名 (英)	視能訓練学Ⅱ OrthopticsⅡ(Training)	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	越田 愛生
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	水曜日/2限
講師紹介	2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて5年間の豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校の専任講師として勤務。						
目的	各種斜視の特徴(眼位・視機能・検査・治療)を理解する						
科目概要	眼球運動異常・眼振						
到達目標	特徴を正しく理解することで症状から異常の分類を予想し、必要な検査を考えることができる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	視能学・訓練学			事前事後 学習と その内容	授業内容に対応した説明はダブルチェックシステムの動画などを活用して確認すること。		
参考図書							
特記事項	各疾患の鑑別を重点的に講義していきます。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	麻痺性斜視 眼球運動神経・動眼神経麻痺	講義	眼球運動にかかわる神経系を確認する。 動眼神経麻痺の特徴を理解する。
2	麻痺性斜視 滑車神経麻痺・外転神経麻痺	講義	滑車神経麻痺・外転神経麻痺の特徴を理解する。
3	麻痺性斜視 全眼筋麻痺	講義	全眼筋麻痺・全身疾患と関係のある眼障害の特徴を理解する
4	筋原性斜視 重症筋無力症	講義	重症筋無力症の特徴を理解する
5	筋原性斜視 慢性進行性外眼筋麻痺(ミトコンドリア病)	講義	慢性進行性外眼筋麻痺の特徴を理解する
6	筋原性斜視 甲状腺眼症	講義	甲状腺眼症の特徴を理解する
7	筋原性斜視 外眼筋炎・固定斜視	講義	外眼筋炎・固定斜視の特徴を理解する。
8	前半復習	講義	前半内容の国家試験に挑戦する。 中間テストを実施
9	筋原性斜視 Sagging eye syndrome	講義	Sagging eye syndromeについて特徴を理解する
10	筋原性斜視 Brown症候群・外眼筋繊維症	講義	Brown症候群・外眼筋繊維症の特徴を理解する。
11	機械的斜視:眼窩吹き抜け骨折 Duane症候群	講義	眼科吹き抜け骨折・Duane症候群の特徴を理解する。
12	眼振 定義・生理的眼振	講義	眼振の定義を理解し、生理的眼振を体験する。
13	眼振 病的眼振	講義	病的眼振の特徴を理解する
14	眼振 治療	講義	眼振の治療方法を理解する
15	定期試験	講義	1～14回目全内容

科目名 (英)	医療と安全 Clonical Safety	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	今井 由恵
		授業形態	講義		ari	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	木曜日/3限
講師紹介	保育士資格・幼稚園教諭2種免許を所持、百貨店勤務、一般企業を経て、医療秘書・医療事務の資格を取得。診療所、保険調剤薬局の保険請求業務を担当。現在も調剤薬局で勤務中						
目的	医療は日々進化していきます。それとともに『これだけやればよい』ということではなく、安全で最良な医療を患者様に提供するためにはどうするか、常に更新しなくてはいけません。現場にでてもからも逐一情報を更新・対応できるよう自分を磨く。						
科目概要	『医療安全』を学ぶ						
到達目標	医療を提供する側として、患者様への最良の医療を提供するためにはどうすればよいのか、患者様への対応をどうしたら一番よいのか、グループワークを中心に考察していきます。また、現在講師が勤務する調剤薬局での勤務時の患者様対応の問題点や安全対策の様々な例などを含め、医療を受ける側としても考察していきます。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	5日間で学ぶ医療安全超入門 配布資料 資料教材			事前事後 学習と その内容	様々な規定を学ぶ。自分の意見を持ち、他の人の意見をしっかりと聞くとともに、ブラッシュアップをできるようにする。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	『医療の安全とは何か』を考える
2	医療の質と医療安全	講義	『医療の質』と『安全とは何か』を理解する
3	医療の安全管理と基礎知識	講義	医療安全の基礎知識、用語を理解する
4	ヒューマンエラーとシステム	講義	ヒューマンエラー、システムの関係を理解する。
5	医療安全と院内組織	講義	医療安全と院内組織。多職種連携での医療安全。患者参加と医療安全。患者・家族＝チーム医療の一員であることを理解する。
6	内部情報収集とその活用	講義	インシデントレポートと報告システムを知る
7	外部情報収集とその活用	講義	第三者機関と安全情報(院外報告)。有害事象に関する患者・家族への説明等、
8	復習テスト	講義	
9	事例の分析方法を知る	講義	事例の分析手法、様々な分析方法を知る。
10	事例考察①	講義	事例体験①グループワーク
11	事例考察②	講義	事例体験②グループワーク
12	事例考察③	講義	事例体験③グループワーク
13	医療安全のためのチーム医療	講義	医療安全と院内組織。多職種連携での医療安全。患者参加と医療安全。患者・家族＝チーム医療の一員であることを理解する。
14	身近な安全対策を体験する	講義	日々の安全対策を体験する。
15	定期試験	講義	

科目名 (英)	視能矯正学実習Ⅱ OrthopticsⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	芝田・正信
		授業形態	実習		有		
		時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	火曜日／1・2限
講師紹介	保有資格:視能訓練士 大学にて視能訓練士の資格を取得。豊富な実務経験を有する。 病院、眼科医院にて実務経験を積み、専任講師として専門学校において教務を行い現在に至る。						
目的	必要に応じた検査の選択、正しい検査方法と記載、その結果の考察までができる。						
科目概要	眼位・眼球運動などの両眼視機能にまつわる検査の実習授業						
到達目標	眼位・眼球運動が正しくスムーズに検査できる。 両眼視機能検査の知識を学び、検査方法を理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 ■実技試験 □その他()						
教科書	視能学・眼科ガイド・エキスパート眼科学			事前事後 学習と その内容	授業開始後に教科書を読み、予習をする。 毎回、小テストを行う。		
参考図書							
特記事項	授業中の動画撮影・写真撮影は不可とする。 実習室の使い方などのルールを守り、授業を受けること。□ □						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	小学校健診にむけた視力検査	実習	乳幼児ではなく、児童に対する視力検査をするうえで、どのような工夫が求められるかを考え、声かけや実技を練習する。0. 1以下の視力検査の復習。
3・4	小学校健診	実習	杉並区の小学校で視力検査の手伝いをする。 児童に触れ、検査することで、検査の楽しさや理解させるための説明の仕方を学ぶ。
5・6	小学校健診振り返り	実習	小学校健診で学んだことをまとめ発表。
7・8	網膜対応検査・固視検査	実習	グループの中でそれぞれ担当検査を決め、その担当が理解した内容をメンバー全員ができるようにする。
9・10	網膜対応検査・固視検査	実習	グループの中でそれぞれ担当検査を決め、その担当が理解した内容をメンバー全員ができるようにする。
11・12	網膜対応検査・固視検査	実習	グループの中でそれぞれ担当検査を決め、その担当が理解した内容をメンバー全員ができるようにする。
13・14	中間テストにむけて練習	実習	これまでに学んだ検査について復習し練習する。
15・16	中間テスト	実習	
17・18	立体視検査 HESS	実習	眼位・眼球運動から、何を考え次の検査をするのかを理解する。
19・20	立体視検査 HESS	実習	眼位・眼球運動から、何を考え次の検査をするのかを理解する。
21・22	症例検討	実習	グループに分かれ各症例に対する担当を決め、その担当がメンバーを率いて必要な検査を行い、どのような結果になり得るのかを考え、実際の結果と比べ考察する。
23・24	症例検討	実習	グループに分かれ各症例に対する担当を決め、その担当がメンバーを率いて必要な検査を行い、どのような結果になり得るのかを考え、実際の結果と比べ考察する。
25・26	症例検討	実習	グループに分かれ各症例に対する担当を決め、その担当がメンバーを率いて必要な検査を行い、どのような結果になり得るのかを考え、実際の結果と比べ考察する。
27・28	期末試験にむけ練習	実習	これまでの検査を復習し期末試験にむけ練習をする。
29・30	期末試験	実習	

科目名 (英)	視能矯正学実習Ⅲ OrthopticsⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	藤戸・正信
		授業形態	実習		有	開講区分	
		時間数	60	授業回数	30		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2				曜日/時間
講師紹介	保有資格:視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士の資格を取得。 総合病院、眼科個人クリニックにて臨床経験後、2024年より専門学校にて専任教員を務める。						
目的	必要に応じた検査の選択、正しい検査方法と記載、その結果の考察までができる。						
科目概要	眼位・眼球運動などの両眼視機能にまつわる検査の実習授業						
到達目標	症例により必要な検査が理解でき、正常値などの知識に基づいた検査をスムーズに行える。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 ■実技試験 □その他()						
教科書	視能学・検査ガイド・エキスパート検査学			事前事後 学習と その内容	理解度を把握するため、また知識を定着させるため毎回小テストを行う		
参考図書							
特記事項	授業中の動画撮影・写真撮影は不可とする。 実習室の使い方などのルールを守り、授業を受けること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	1年次に習った角膜反射・眼位検査のみるべきポイントが理解できているか、検査目的は何か、正しく記載ができるかなどの復習に加え、眼球運動の正常値を知り、検査練習する。
3・4	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	眼位検査の定量が正しくできるか復習し、内斜視や上下斜視の定量の練習もしてみる。 眼球運動検査に加え輻輳検査の正常値を知り、練習する。
5・6	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	角膜反射・眼位検査・眼球運動検査・輻輳検査がスムーズに行えるように練習し、その結果から何が考えられるかを学ぶ。
7・8	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	これまでに学んだ検査について、正常値などの基礎知識の復習、正しい記載、スムーズに検査を行うための声かけを意識し練習する。
9・10	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	これまでに学んだ検査について、正常値などの基礎知識の復習、正しい記載、スムーズに検査を行うための声かけを意識し練習する。
11・12	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	これまでに学んだ検査について、正常値などの基礎知識の復習、正しい記載、スムーズに検査を行うための声かけを意識し練習する。
13・14	中間テストにむけ練習	実習	これまでに学んだ検査について復習しテストに備え練習する。
15・16	中間テスト	実習	
17・18	注視野 眼球突出度検査・スペキュラ・シルマー	実習	検査学で学んだ知識を実技として練習し理解を深める。
19・20	注視野 眼球突出度検査・スペキュラ・シルマー	実習	検査学で学んだ知識を実技として練習し理解を深める。
21・22	点眼・超音波検査 OCT・眼底カメラ	実習	検査学で学んだ知識を実技として練習し理解を深める。
23・24	点眼・超音波検査 OCT・眼底カメラ	実習	検査学で学んだ知識を実技として練習し理解を深める。
25・26	点眼・超音波検査 OCT・眼底カメラ	実習	検査学で学んだ知識を実技として練習し理解を深める。
27・28	期末試験にむけ練習	実習	これまでに学んだ検査について復習しテストに備え練習する。
29・30	期末試験	演習	

科目名 (英)	対人援助講座Ⅲ Communication Ⅲ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	押江 善正
		授業形態	演習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	木曜/2限
講師紹介	保有資格:介護福祉士、介護支援専門員、同行援護従業者養成研修応用課程修了、介護教員資格 略 歴:H15より訪問介護員として、在宅介護に従事し現在も活動中。3つの事業所の管理をする中、人材育成の重要性を痛感し、非常勤講師としてヘルパー養成校の教壇に立つ。H27より事業所併設のヘルパー養成校を設立し、介護人材の輩出・育成をしている。R5.5より、訪問介護事業所を設立・運営をしている						
目的	・本科目は、知識として学ぶというよりは、対人援助業務者として身につける(修得する)内容を示している。そのためには、知識的項目として表示されていないが、授業への参加そのものが学習内容と密接にリンクしているので、欠席しないように心がけてください						
科目概要	臨床現場で関わる、高齢者や障がいを負ってしまっている方の背景を理解し、その方々に対して適切な介助方法・対応の仕方を身につける。個別援助の意義、尊厳の保持、デザインシンキングが理解できる						
到達目標	対人援助職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づくことができる 人と接することとして、コミュニケーションの重要性、対人の個性を理解し、その人を支えるという視点から支援を考えられる 高齢の方や障がいを負ってしまっている方への応対方法を身につけられる						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	「同行援護従業者養成研修テキスト(第4版)」 中央法規				事前事後 学習と その内容	身近な障がい者を注視して、自身の活動と思いをあわせる	
参考図書	なし						
特記事項	校外実技						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	視覚障がい者・児福祉の制度とサービス	演習	・日本の社会制度の理解ができる ・障害福祉の遍歴とサービスが説明できる
2	障がい・疾病の理解①	演習	・様々な障がい・疾病が理解できる ・障がいの分類と視覚障がい者の立場が理解できる
3	障がい・疾病の理解②	演習	・「見える」ということの理解 ・視覚障がい者の主な疾病が理解でき、説明できる
4	障がい者・児の心理	演習	・視覚障がい体験を通じ、視覚障がい者の見えない・見えにくさを理解できる ・障がいの受容過程を説明できる
5	同行援護従業者の制度と業務	演習	・同行援護従業者の倫理観を説明できる ・同行援護の制度を理解できる
6	情報支援と情報提供①	演習	・言葉による情報提供が理解できる ・移動場面における口頭での情報提供ができる
7	情報支援と情報提供②	演習	・状況、場面別での情報提供ができる
8	復習試験	演習	・復習と確認 ・復習試験
9	代読の基礎知識	演習	・代読の方法を理解し、情報提供できる
10	代筆の基礎知識	演習	・代筆の方法を理解し、代筆できる ・点字の基礎を理解できる
11	基本技能①	演習	・基本姿勢を身につけられる ・歩行、進む、曲がる、止まるが安全にできる
12	基本技能②	演習	・イスへの誘導ができる ・段差、階段の誘導ができる
13	応用技能①	演習	・環境に応じた歩行ができる ・ドアの開閉など
14	応用技能②	演習	・環境に応じた歩行ができる(郊外実技) ・トイレへの誘導ができる
15	定期試験	演習	・振り返りと実技の総演習 ・定期試験

科目名 (英)	卒業研究Ⅰ Graduation ProjectⅠ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	今井 哲也
		授業形態	演習		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2				曜日/時間
講師紹介	保有資格:視能訓練士(2009年) 大学を卒業後に病院にて5年間の豊富な実務経験を経て専任講師として専門学校の教務を行い現在に至る。						
目的	卒業後に勉強をする方法をこの授業で行います。学校は建物でいうと基礎の部分を勉強します。臨床に出てからが本当の勉強です。 すなわち柱、梁、屋根の部分である臨床知識を自分自身で研磨して時代に合った知識をつけていくことが視能訓練士としての使命で患者さんへの貢献につながっていきます。また、視能訓練士はチーム医療です。グループでの自分の役割や協力なども研究を通して学んでいきます。						
科目概要	卒業研究Ⅱは臨床研究を行い、1月に研究発表会にて研究発表を行う。卒業研究Ⅰでは座学や研究準備を行う。						
到達目標	学会での発表や臨床研究の方法を理解する 原著論文や総説を読んで理解する技術を学び、卒業後の学びに活かせるようになる。 グループワークを通して、チーム医療の大切さを理解しスキルを獲得する						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他()						
教科書	授業資料			事前事後 学習と その内容	授業は講義半分、班活動半分で行っていきます。 授業のはじめに小テストを行います。		
参考図書							
特記事項	小テスト10% 倫理委員会30% 定期テスト60%で採点します。 倫理委員会はスーツにて行います。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	研究の流れ・グループ決め	演習	研究の流れ 研究グループの班決めをする
2	研究計画書・研究内容の話し合い	演習	研究計画書について どのような研究をしたいのか(背景や目的)話し合う
3	利益相反について	演習	利益相反について
4	倫理委員会について	演習	倫理委員会について・研究計画書作成①
5	不正行為について	演習	不正行為について・研究計画書作成②
6	参考文献について	演習	参考文献について・研究計画書作成③
7	抄読会について	演習	抄読会の方法・研究計画書作成④
8	論文を読もう①	演習	各班で論文を読む①・研究計画書⑤(中間提出)
9	論文を読もう②	演習	各班で論文を読む②・研究計画書⑥手直し
10	抄読会③	演習	各班で論文を読む③・研究計画書⑦手直し
11	倫理委員会準備・研究計画書完成	演習	研究計画書最終提出。
12	倫理委員会振り返り	演習	倫理審査委員会振り返り
13	研究の方法再確認・夏休み宿題について	演習	講義の内容のまとめと研究方法を再確認する。夏休みの宿題について
14	研究開始・タイムスケジュール	演習	研究のタイムスケジュール・研究を計画的に進めていく
15	定期試験	演習	講義、授業資料の内容からテストを行う

科目名 (英)	卒業研究Ⅱ Graduation ProjectⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	今井 哲也
		授業形態	演習		有		
		時間数	60	授業回数	30	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	4			曜日/時間	木曜日/1限2限
講師紹介	保有資格:視能訓練士(2009年) 大学を卒業後に病院にて5年間の豊富な実務経験を経て専任講師として専門学校の教務を行い現在に至る。						
目的	視能訓練士の学会である視能矯正学会の発表に準ずる形で、研究や発表を進めていきます。 学会の発表がどのように行われているのか、卒業後現場で自分自身で学ぶ力を養っていきます。 班の中で自分の役割を理解し、チーム医療を学んでいきます。						
科目概要	自身が選択した研究課題に対して、他者に効率よく伝える手法を学び、問題解決能力を向上させる						
到達目標	学会での発表や臨床研究の方法を理解する 原著論文や総説を読んで理解する技術を学び、卒業後の学びに活かせるようになる チームでの1つプロジェクトを完遂させる						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他()						
教科書	視能学			事前事後 学習と その内容	卒業研究Ⅰで勉強した内容を有効に使い、研究を行います 卒業後の勉強に役立つ内容となる		
参考図書							
特記事項	卒業研究発表会を定期テストとする。 発表はスーツ着用のこと						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	講義・グループワーク	演習	研究を開始するにあたり 研究計画書に合わせて研究を実施する
3・4	講義・グループワーク	演習	研究を開始するにあたり 研究計画書に合わせて研究を実施する
5・6	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する
7・8	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する
9・10	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する
11・12	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する
13・14	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する 予演会の準備をする
15・16	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する 予演会の準備をする
17・18	予演会	演習	予演会を行い、研究の進捗具合、修正ポイントを確認
19・20	グループワーク	演習	発表内容の修正
21・22	予演会	演習	予演会を行い、研究の進捗具合、修正ポイントを確認
23・24	グループワーク	演習	研究結果の発表の準備
25・26	グループワーク	演習	研究結果の発表の準備
27・28	発表最終確認	演習	発表の準備
29・30	卒業研究発表会	演習	